

【成果指標の設定】

成果指標設定年度 19 年度

市町村名	秩父市		
補助事業名	バイオマスエネルギー研究を中心とした環境意識啓発事業		
事業期間	19 年度	～	19 年度
事業の必要性、目的	<p>本市では、「秩父市第1次総合振興計画」において、「環境重視・経済再生」を将来都市像のキーワードに掲げ、基本計画の中でも本市の最も強調したい施策であることから第1章に「森と水の力を未来につなぐ「環境のまち」」として掲げ取り組んでいます。</p> <p>一方、埼玉県は河川面積の占める割合が3.9%であり全国一の規模であり、上田知事は「河川の国」を提唱し河川を清流にすることを推進しています。</p> <p>荒川の源流である秩父地域から環境保全とバイオマスによる循環型社会を発信・実行していくことが本市の使命であると考えています。</p> <p>本事業は、バイオマスエネルギー研究として①木質バイオマス発電施設の原料である杉チップの効率的な回収 ②サニテーションによる水質保全 ③廃食油のBDF燃料化による水質保全と新たな自然エネルギーの開発</p> <p>バイオマスエネルギー研究を補完する環境意識啓発として①針葉樹よりも二酸化炭素吸収量の多い広葉樹の植栽活動とバイオマス発電施設の原料である薪拾い体験 ②荒川中学生サミット開催における下流域住民との交流と自然体験プログラムによる環境意識向上 ③環境と循環型社会の先進国であるスウェーデンとの技術交流活動を展開するものです。</p>		
成果指標	(成果を検証する指標)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秩父市吉田元気村発電施設の視察者数</li> <li>・環境意識啓発による環境意識が向上した人の割合</li> </ul>		
	(成果検証の具体的な方法)		
	秩父市吉田元気村発電施設の視察者数の集計 及び、元気村視察者に対するアンケート実施により環境意識が向上した人の割合を集計する。		
	(上記の指標を設定した理由)		
	発電施設のある吉田元気村には、発電施設、サニテーション実証施設、発電による余熱を利用した足湯施設があり、本年度新たに、廃食油再生施設と炭焼き体験釜を設置し、来年度以降、発電による余熱を利用した新たな施設を設置する予定です。このような、バイオマス研究に関する施設の拠点である秩父市吉田元気村発電施設の視察者数の増加が環境意識啓発による環境意識向上度に結びつくと考えます。		
	(成果の目標値)		
現状値 (19年3月現在)	1,300人(年間)	目標値 (21年3月時点)	4,000人(年間)
(施設建設等の場合)			
年間利用者数(目標)(人)	2,800人	稼働率(目標)(%)	—
住民への公表方法及び特記事項	市のホームページにおいて目標値を住民に公表します。また、対象施設にアンケートを設置し、来場者の意向を確認した結果を事業実施後の原因分析及今後の改善策検討のための資料とします。		

【成果指標と事業の関連性】

※平成19年度補助事業を構成する各事業

補助事業を構成する事業	概要・成果指標との関連性	事業費(千円)
① サニテーション調査事業	ソフト 単独浄化槽の放流水と台所、お風呂等の排水を地場製品のスギチップ・炭等を使用した装置により処理することで、公共用水域の水質向上を図るため、市民を交えた実践調査・試験を実施する。水質分析等の調査を行うとともに、処理水をトイレの水として循環利用する。固形物を消滅機で処理する実験調査も行う。	4,700
② 環境学習施設整備事業	ハード 吉田元気村にBDF燃料化装置を整備し、主に市給食センターから排出される廃食油の燃料化を行い、石油代替エネルギー資源として、廃食油を有効活用する。また、市民参加による廃食油回収システムを確立し、自然環境保全ひいては良好な環境形成に寄与するとともに市民の意識啓発を図る。さらに、体験用炭焼き釜を整備し、環境問題や新エネルギーを見て、触れられる場を提供し、小中学生の環境保全意識啓発を図る。	5,100
③ 多商品型の森林形成事業	ソフト 木質バイオマス発電事業を展開しながら、流域の人たちと協働で人工林へのカエデ等広葉樹の植栽による観光やメーブルシロップの採取などに利用できる多商品型の森林形成を進めることで、森林の公益的機能の向上と新規産業・雇用の創出を図り、秩父の森林と水を守り、流域を潤す。また、広葉樹植栽に伴い、既存の杉などの針葉樹を伐採、間伐し、バイオマス発電に用いる杉チップの原料にする他、地域住民と都市住民を対象に薪拾い体験プログラムを展開し、植栽一伐採一間伐材利用一植栽の森林の循環利用の学習に応用する。	4,000
④ 荒川中学生サミット開催事業	ソフト 荒川の上下流の中学生の環境学習に取り組んでいるグループを招き、成果発表の場を設ける。本年度は、従来の取組み成果発表中心だった内容から、環境保全についてのディベートも行う、サミット開催に向けて年間を通じて学校教育の場で環境について議論する機会を作り、より良い環境問題解決に向けて常に考える機会をつくる。併せてバイオマス発電施設、廃食油再生プロセスの視察と炭焼き体験を行い、環境意識の高揚を図る。	1,430
⑤ スウェーデンとの技術交流事業	ソフト バイオマス先進国であるスウェーデン大國シェレフティオ市と秩父市は、バイオマス技術を中心とした産業交流協定を締結する。本年度は秩父市において両市の産業交流フェアとシンポジウムを開催し、バイオマス技術の交流と持続可能な社会づくりの啓発を行う。	2,276
合計		17,506

【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	事業については、学識経験者や専門家等によりバイオマスエネルギー研究事業運営評価委員会を設置し、検討を重ねているほか、出来る限り様々な意見を事業に反映するよう努める。
成果指標の達成見込み	当市への視察者数を2年後に約3倍に増加させる成果目標を達成するにあたり、バイオマス元気村の拠点施設を中心に平成19年度ソフト事業4件、ハード事業1件を組み合わせると十分な効果が出るかと判断した。また、平成19年度事業実施後に事業の分析を行い、平成20年度事業の内容を修正することで、目標達成をより確実にします。